今昔小町譚

稿本 秋川 豊國画

逍遙文庫
文庫6
966

俳諧五七集

枇杷園士朗翁著

全五冊

士朗先生俳諧の書数篇の中三十五篇を
をして五七集と号け先生一世の俳諧
風雅を尽されしハ此書なり芭蕉翁
ゆひの一大家ふて風調意味深く此道ハ
遊ぶ輩の亀鑑とすべし

尾陽　東壁堂　永樂屋藏板

文庫
966

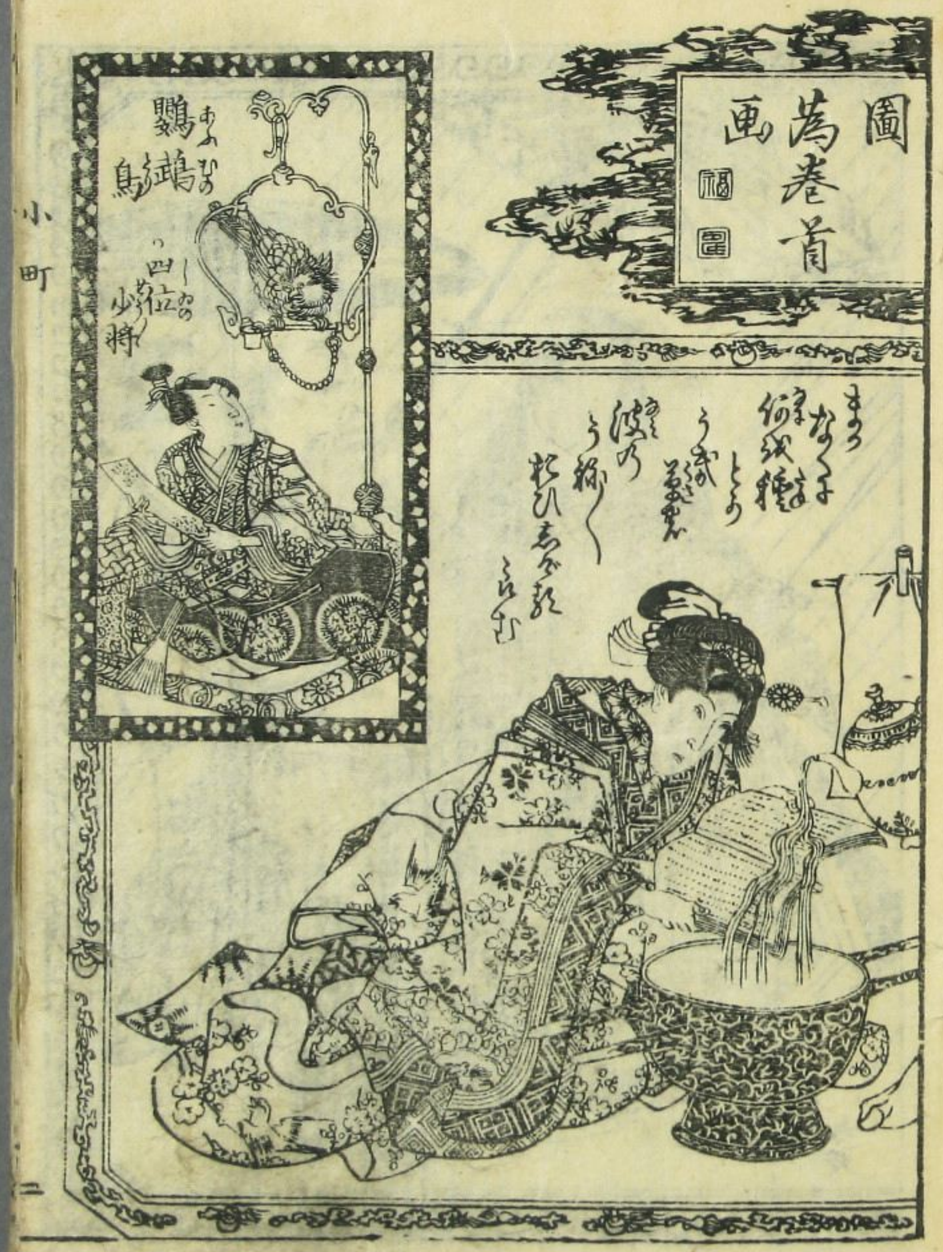
今昔小町譚序

愚案問答　享保十七年著　寛保二年印本

「昔より小町と人毎に美人の
せうふやひ名付て小町踊といひ伝へ
し者證故ハ哥仙の若女形時代めけ世話も捨て今世
流行豊後節の関の戸さらぬ君代や歓楽尽の敲腹
かなづる舞の一曲より清草を稽して波のうち
ちる。按系の亀ハ常盤津の實ふうちぬ筆の花
世昔の小町の義容かゆ冊子よりて二絃乃先ト渭声ル顧也
此変ふ口唱謡ものの長

源氏窓主三虎

文庫6
966



墨染
太夫

雨乞
小町
のうえん
雑鐘木
町の
傾城
墨染
道中の
高
関寺
関の
坊絵
安
唯高王子

歳暮陰陽催短景
天涯孤雪霽寒宵
五更鼓角聲悲壯
三峽星河影動搖
野哭千家聞戰伐
夷歌幾處起漁樵
臥龍躍馬終黃土
人事音書漫寂寥

關雲長
松山錄

関扉淨瑠璃の盪觴

関扉乃戸の狂言ハ天保の始江戸相模屋にて元祖中村仲蔵氏の
略孝紀女の故人市川門之助氏ハ大当りいろて淨瑠璃
ゆり狂言仮名劇神仏くれどのべて積憑雷関扉と名づく常磐津
文字太夫同造酒を文同為を夫節とをーて是を奥ゐくを
ゐに古今まれなる大当り尚其淨瑠璃世に流布するあこうつと
今ひいろても常磐津節青一乃曲ととと

かりのさん

[illegible]和天皇の御宇奥勢乃法小野好突とさこえ[illegible]
びこう天まうよろの家系にしてそたいのふこのくるもの墨に住るらいの名
ゆして古人どえなれ如乃ふいりぬ鼠英小まちいたくいものの次あくよも
恭人かげりて幸なく高ゐてびびもあき名れ[illegible]ろ徒[illegible]ほくしに
にてさし景乃れひのでるれそ[illegible]好美かぎ花と愛さろる其比[illegible]
美歌乃きこえ言かりー泳章四位乃七[illegible]奥[illegible]一歌入
くあでんのふとんぐるひまよくんをゆめて表ぐくけくあ[illegible]
やこんのるぶのいるる表て繼るかること地ーろくるうら
はじまて隆内乃林湯沢乃極花かあこなりてをを見めるとろかったかしそを

小野小町
四位少将

出羽の山
湯殿山
櫻の局

四位少将出羽の国より帰京の体

小田

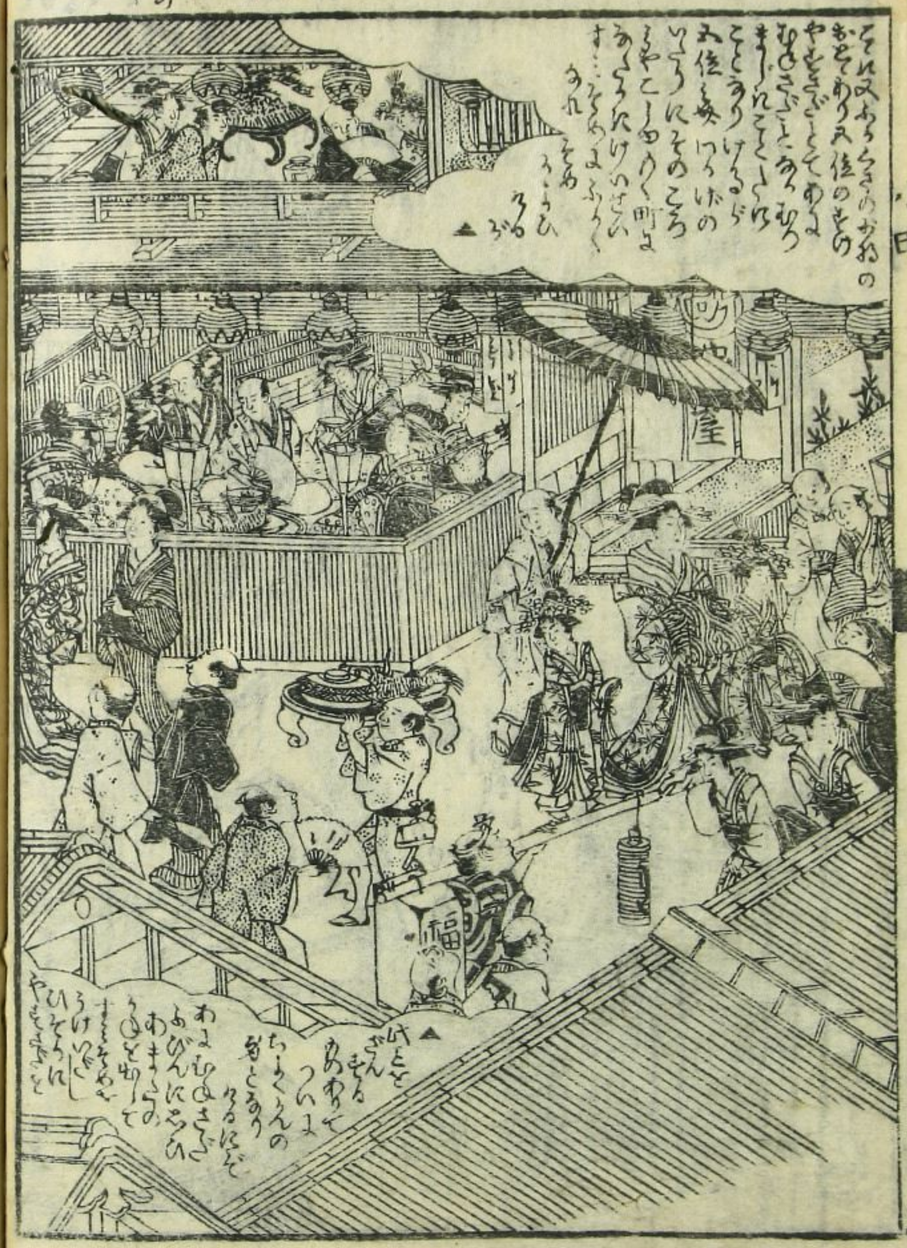
小町

巻之三

小田

小田

鐘木町
名ある廓中
畫

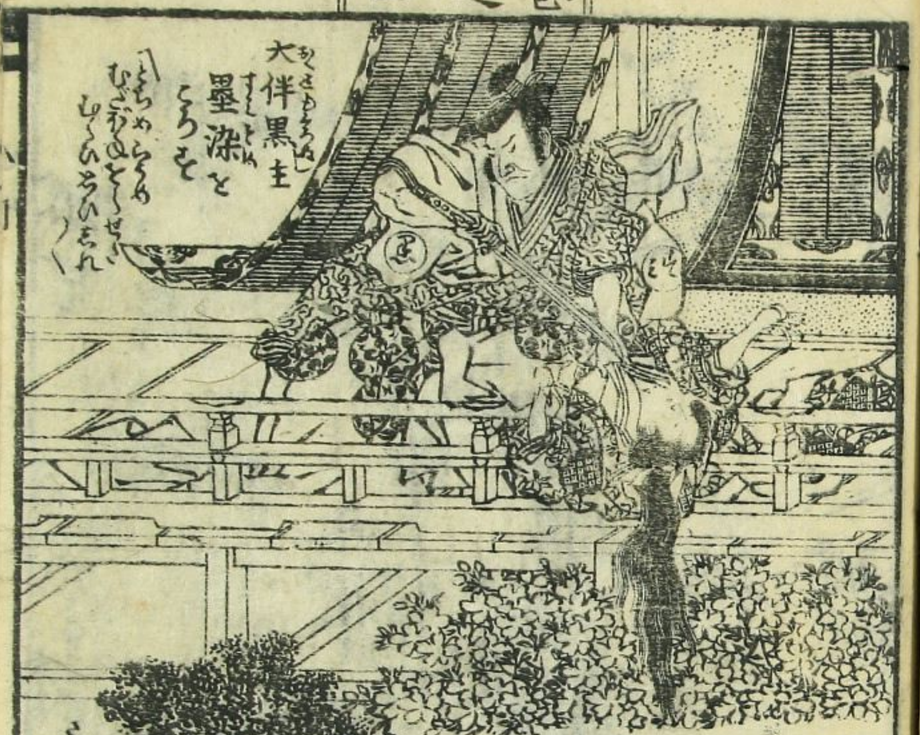


黒染太夫
道中の處

小田

小町

徳瓶作
豊國画



まゝ人のつぶて

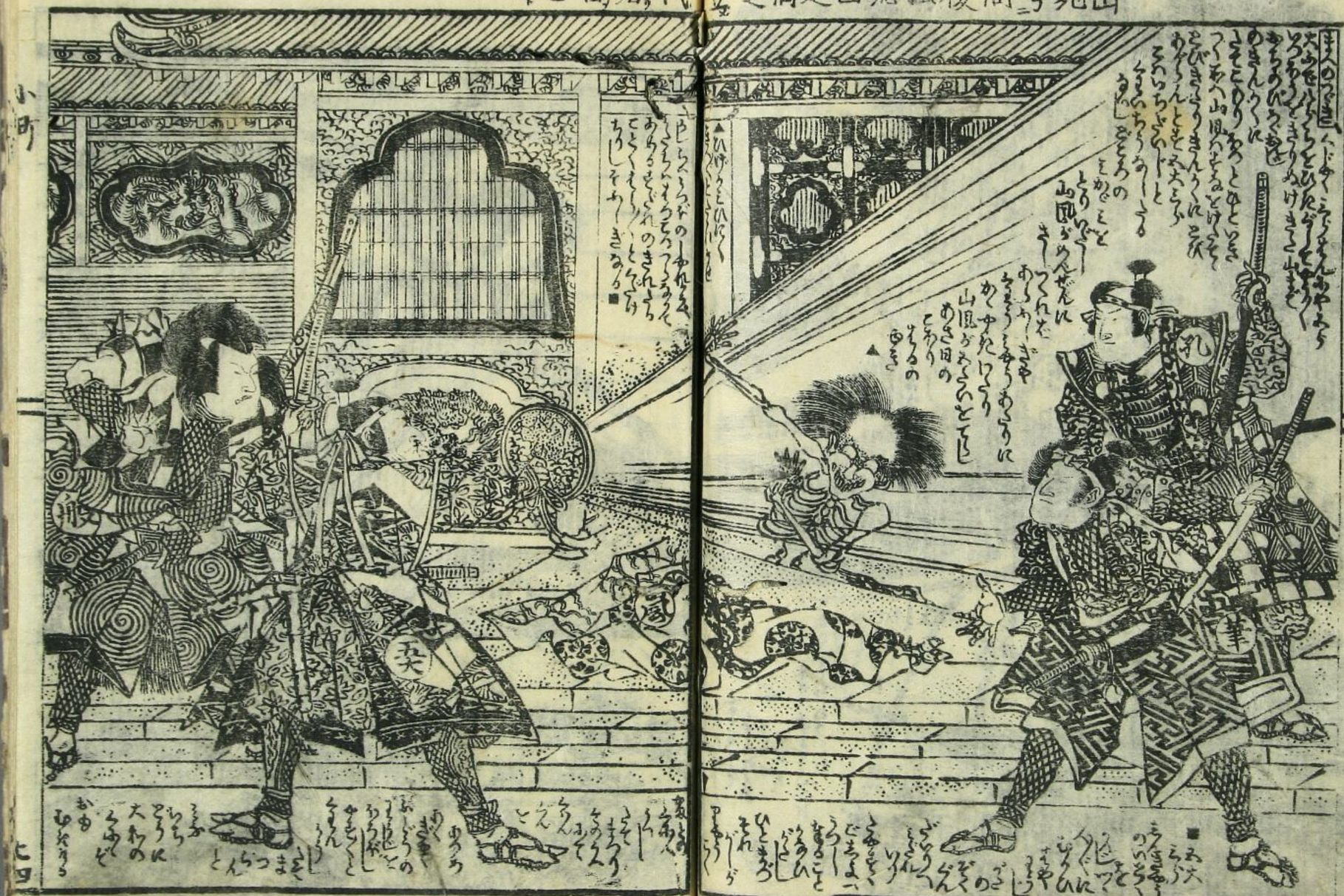
荒

巻之五

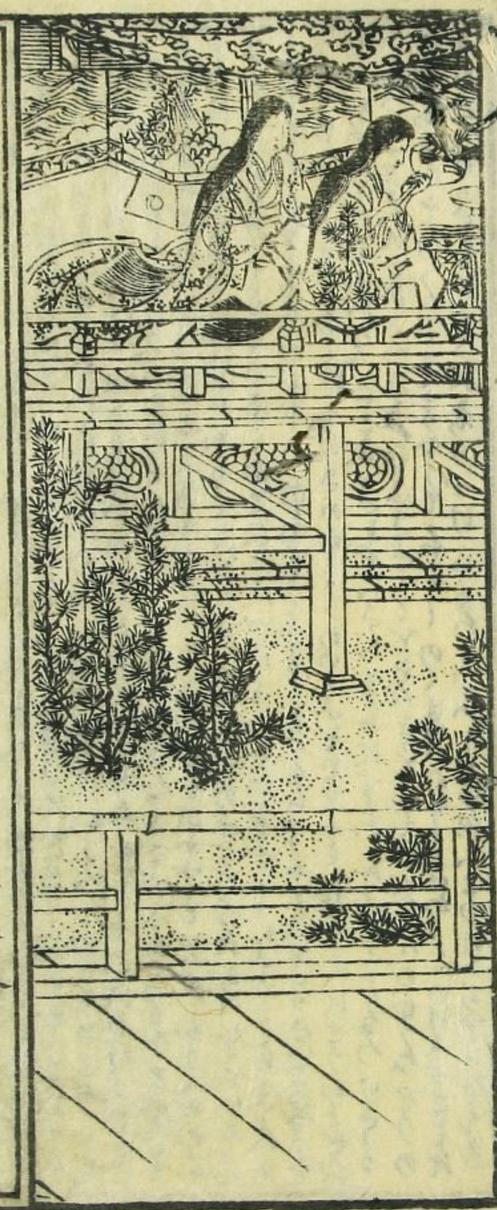
小町
高
五
大伴山風

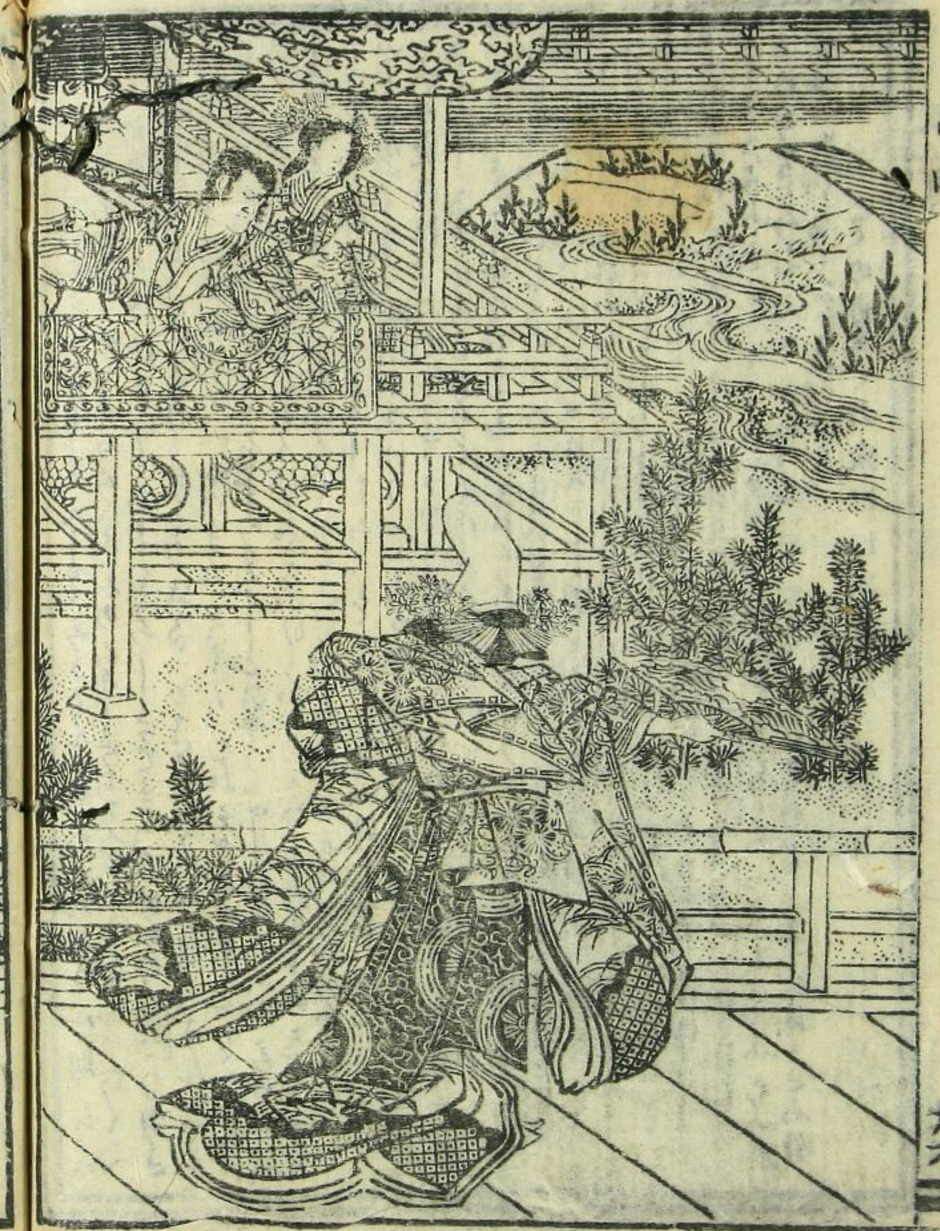
九鹿山苑院号金閣寺後小松院永四年足満義之公建立

時代大石快間出巻中ノ賑



こんさハきゝ中ゑぞん
まゐあぐらにいろせ人ゝ
これぞんえんのうの
えんやハ
ごうぎに
くゝんとどこ
アナ





関扉乃ごん

昔むかし新の其形様に屡似る誌計の作ハ家業の片手ぶさ
豊國の主人とかいていろう此身もぢひの貝買とうる作者にあらうや
と筆をたゝうにてにとても覚束なくど見えにる○去程に偖も其石
少将ハ位と辞して逢坂の關のかたうにそのびかたちにむすぶ草室ハ
身安貞が菩提の為昼夜とつゝ読経の念珠ハ涙のくまあらもさ
ちやうに降タぐれの雪にめくれとそくても血しおれにそしを袖と手ま
ちうめげてうちなげき○ハツチちひろぐれがあるうしや第五位之助安さうい

上之巻

[illegible]

王琴の音いろもゝ[illegible]に[illegible]■うゐーやわらあん[illegible]
[illegible]のちきりうきえにしー人の道[illegible]ゑ[illegible]
[illegible]■かるゆゑぢのせんのとんさもうえる
[illegible]

下の巻

[illegible]

まくのうち
○けれどもそちらのとびのろう
上まるた丁可樂

高
矢
孔

黒
華

朝茶湯了口切　山東京傳作　歌川豐國画

今昔小町譚　橋本德瓶作　歌川豐國画

却説浮世之助話　式亭三馬作　歌川國貞画

松緣高砂話　柳亭輔作　歌川國貞画

先讀三國小女郎　山東京山作　歌川國貞画

戀女房讐討双六　柳亭輔作　歌川國長画

昔語丹前風呂　式亭三馬作　歌川國直画

一對男時花歌川　式亭三馬作　前編歌川豐國画　後編歌川豐廣画

天笠德兵衛物語　山東京傳作　歌川豐國画

早稲田大学図書館
011688991350